

東北学院大学教養学部 公開講座「大人の教養倶楽部」2021

Distance - 「隔たり」の教養学

- ・コロナ禍の昨今、これほど人と人との「隔たり」が求められ、意識させられる日々は歴史上、なかつたに違いありません。
- ・では、この「隔たり」を手がかりとして私たちの世界を見直してみると、一体何が描き出されるでしょうか。

・「隔たり」の直接の意味は「物理的な距離」のことですが、しかし各専門分野からみれば、それ自身が多様な概念をはらんでいて、「物理的距離」に限られるものではありません。

・社会心理的などの、無意識的・本能的なものから、意識的・打算的のものまで、さまざまな「隔たり」の事象や概念があるでしょう。

・実は、2017年の本講座では「つながり」の視点から連続講義をおこないました。

・今回、その反対の「隔たり」への着目は、私たちをどのような世界に導いてくれるでしょうか。

1

3

11月6日

モノのインターネット(IoT)を活用した防災・減災の現状と課題

地域の防災・減災対策強化に向けた手段の一つであるIoTおよびその関連技術と社会との隔たりに関して

コンピュータ科学



情報科学科 高橋 秀幸

11月13日

学びの隔たりを克服する

“学ぶ場所”から離れ地域に住む人が、より多くの学びの機会を得られるための取り組みを考えます。

教育学



人間科学科 泉山 靖人

11月20日

健康運動という考え方に対する「隔たり」

「健康のために運動しましょう。」よく耳にするかと思えます。その健康運動の考え方の「隔たり」を縮めたいと思

健康科学



人間科学科 岡崎 勲造

12月4日

性的多様性で読む『ロミオとジュリエット』

家同士の確執や愛する者との別れ等、文学作品に描かれる〈ディスタンス〉を性的多様性の視点で読み

英米文学



言語文化学科 井上 正子

講師の紹介

2

10月2日

隔たりと交流が生む文化景観の地域性

「隔たり」は人々の生業や文化に地域特性や分布パターンを生成する基本要因でした。その原

人文地理学



地域構想学科 高野 岳彦

10月9日

「遠い国」と「近い国」— 国際関係における「ディスタンス」とは。

近いのに遠く感じる外国があり、遠くても近く感じる外国もある。この講座では国際関係における「ディスタ

国際関係論



言語文化学科 李 承赫

10月16日

「音で“隔たり”をこえる」

音はコミュニケーションに利用されますが、本講義では、音を用いた空間的に離れたものを可視化する学

感覚知覚科学



情報科学科 松尾 行雄

10月30日

隔たりの空間としての都市—密集空間で求められる作法

都市は多数の見知らぬ人が出会う空間です。この互いに隔たりのある人々の中では、どんな作法が求

地域社会学



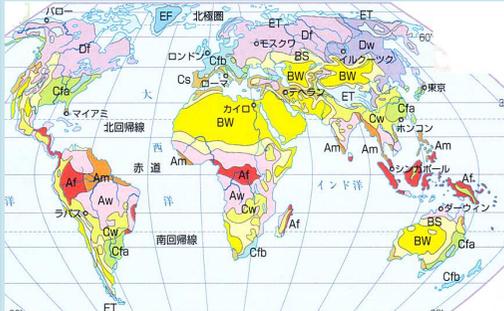
地域構想学科 佐久間 政広

第1回 「隔たり」と地域性… 近代地理学の原点

4

- ・地理学は、諸事象に「地域性」を見出し、その成立の仕組みを探求する学問。
- ・「隔たり」または「距離」は、諸事象に地域性をうみだす素因ということができる。
- ・そこから「自然地理学」(地形, 気候, 植生)が急速に発展し、1900年のケッペンの気候区分↓が、その1つの到達点に。

- ・近代地理学は、自然の姿「景観」を構成する多様な事象群(植生, 地形, 大気現象 etc.)のあり様を、秩序だった「コスモス」としてとらえた19世紀のファンボルトに始まる。
- ・その前の1800年代中頃、「隔たり」と「地域性」という視点から生物のあり様を観察した生物地理学者ウォレスが、環境適応・自然淘汰に基づく「進化論」をダーウィンと共同発表した。
- ・「隔たり」と「地域性」という地理学が生み出した成果としては、これが初期の最大のものといえる。
- ・今は忘れられたようなこの説を少しふりかえりたい。



「隔離」と「進化」-ウォレスの着想

- ・「隔たり」と地域性を考えることから大理論につながった例として、動物地理学者A.R.ウォレスが見いだした生物の「隔離」による「種」の多様化⇒進化の仕組みがあった。
- ・A.R.ウォレスは、ウェールズの下級役人の家に生まれ、学校教育は小学校のみ。測量士の兄を手伝いながら、イギリス各地を転居。
- ・各地の図書館で地質学の知識を深めるとともに、当時、欧州人の自然観に浸透したフンボルトの「コスモス」論やダーウィン「ビーグル号航海記」などに触発される。
- ・1848年、昆虫採集家の友人を誘って南米へ。珍奇な動植物の標本を集めて欧州で売って金儲けするため。
- ・南米に4年間滞在の間、彼は、アマゾン川とその流域の動物を観察。
- ・大河の上・中・下流と川の両側でサルが近縁でありながら少しずつ違うことを発見。…種、亜種レベル



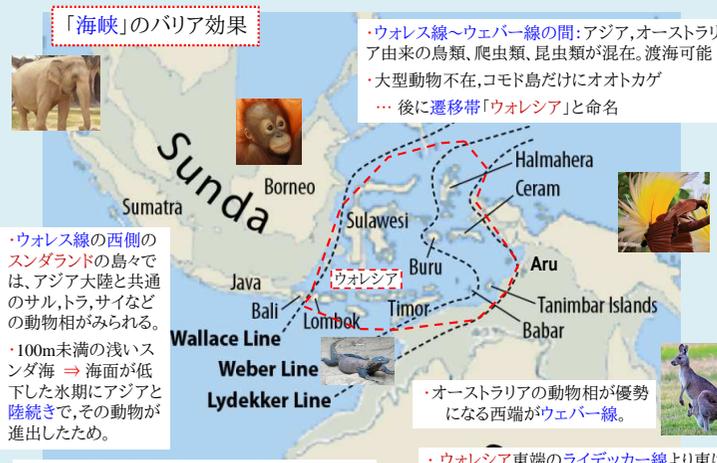
Alfred Russel Wallace
(1823~1913)

- ・この観察から彼は、原種となったサルが流域に拡散した後、大河の上中下流の両岸に定着し、互いに「隔離」状態で世代交代する間に、少しずつ環境に適応して姿を変え、近縁の「種」になったという生物進化の考え「環境適応・自然選択説」を着想。

5

「海峡」のバリア効果

- ・ウォレス線の西側のスンダランドの島々では、アジア大陸と共通のサル、トラ、サイなどの動物相がみられる。
- ・100m未満の浅いスンダ海 ⇒ 海面が低下した氷期にアジアと陸続きで、その動物が進出したため。
- ・ウォレス線の東側の島々には大型哺乳類が欠く。
- ・東西を分けるのは、島嶼部を横断する、マレーで最も深い(250m)海峡 … 氷期にも海のまま。



- ・ウォレス線~ウェバー線の間: アジア、オーストラリア由来の鳥類、爬虫類、昆虫類が混在。渡海可能
- ・大型動物不在、コモド島だけにオオカゲ
- …後に遷移帯「ウォレシア」と命名
- ・オーストラリアの動物相が優勢になる西端がウェバー線。
- ・ウォレシア東端のライデッカー線より東は浅い陸棚で、氷期にオーストラリアと一体。
- ・ニューギニア、アル諸島には、ウォレシアにはいない有袋類、極楽鳥、陸棲の鳥、淡水魚。

7

- ・アマゾンの新世界ザル
- … 6属: サキ、ウーリーモンキー、ホエザル、ウアカリ、リスザル、タマリン





- ・この下にそれぞれ種、亜種がある。





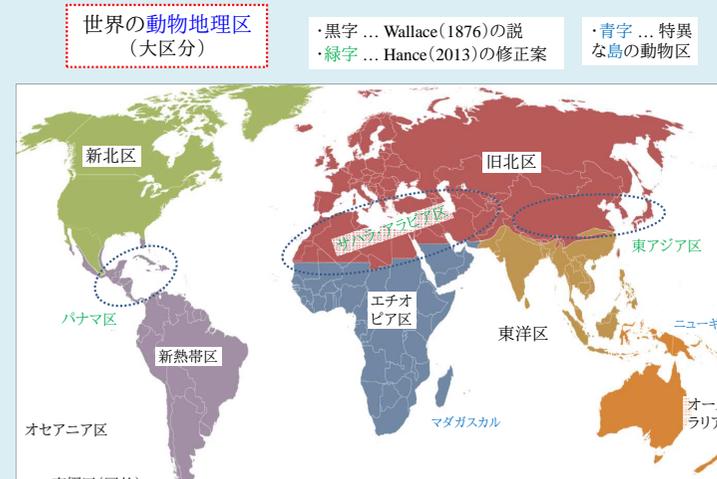
- ・帰欧後、同類の考えをもつダーウィンと知り合いに。
- ・この「隔離」と生物種の間を、次に「島」で確認するため、1854年、マレー諸島へ。
- ・生物が海に隔離されてどう変容しているかを探求。
- ・探検の間、生物進化の「自然選択(淘汰)説」を確信。
- ・1858年、同じ考えのダーウィンと「進化論」を共同発表。
- ・1859年、ダーウィンが単独で『種の起源』発表
- ・マレー諸島では、彼は予想通り、海峡による隔離が、生物の特徴を規定していることを確認。
- ・1869年、『マレー諸島』を刊行、ベストセラーに。

6

世界の動物地理区 (大区分)

- ・黒字 ... Wallace (1876) の説
- ・緑字 ... Hance (2013) の修正案

- ・青字 ... 特異な島の動物区



8

★動物の移動を隔てる障壁(barrier) ... 海、海峡、陸峡、大山脈、砂漠、大河